

篠原幸雄からやましたゆきおへ

マンガと生きた50年

30

米国任天堂との仕事



ネット配信版・新つれづれ草に掲載の「マンガと生きた50年」は、東京都江東区・森下文化センターにて2017年10月20日（金）から29日（日）の会期で開催しました、新つれづれ草マンガ展「篠原幸雄からやましたゆきおへ マンガと生きた50年」で展示した展示物を再構成したものです。

おやじマンガ同人誌

つ新つれづれ草

マンガ展

篠原幸雄からやましたゆきおへ

マンガと生きた50年

おやじマンガ同人誌「新つれづれ草」の山下幸雄は1970年少年ジャンプから篠原幸雄としてマンガ家デビューその後、マンガ家、デザイナー、編集者としての立場を変えながらマンガとの関わりを持ち続けて生きてきたそして今再び、やましたゆきおとしてマンガを描き始めた！

イースト・星原幸雄
(漫才少年ジャンプ57号掲載、9月15号の五五)

日時：10月20日（金）～10月29日（日）
午前9時より午後9時まで（最終日は午後5時まで）
会場：森下文化センター1F展示ロビー
お問合せ：森下文化センター
〒135-0004 東京都江東区森下3-12-17
TEL03-5600-8666 FAX03-5600-8677
都営地下鉄新堀線・大江戸線「森下」駅A6出口より徒歩8分
都営大江戸線・東武メトロ半蔵門線「清澄白河」駅A2出口より徒歩8分
<http://www.kcf.or.jp/>

主催・新つれづれ草 共催・森下文化センター



入場：無料





30、米国任天堂との仕事

英語の本を作る

1983年5月にワークハウスを設立して5年目の、1988年、徳間書店海外事業部からの依頼で、米国任天堂（NOA）が米国で年末に販売する米国版ファミコン（NES）本体に同梱する全ゲームのガイドブックを製作することになった。

米国市場でファミコンは売れ始めているが、ゲーム情報誌や攻略本の様なものがまだ無く、ユーザーのために、米国任天堂自身がゲームの攻略情報を含むガイドブックを作り、本体の箱の中に入れて売るという企画だった。

アメリカの子どもたちに読んでもらえる紙面作

りはどうしたら良いのか、英語の雑誌を見てもゲーム情報を掲載している物は無く、分からなかった。

ゲームの記事や攻略本を作る中で、外注のライターさんや編集会社の方をお願いすることも多くなっていました。その中でゲーム情報を外国の雑誌に執筆した経験があるメンバーが見つかり、協力を求めました。

アメリカのパソコン雑誌などでは、日本の様に画面写真やマップを多用して記事を作ることは無く、文章で説明して参考用に画面写真を添える程度だと、アメリカの雑誌の紙面を見せていただいた。

シンプルで分かりやすい紙面を基本に、ガイド

ブックの製作が始まり、色校正紙を米国任天堂へ送ることが出来ました。

そこから、地獄の作業が始まった

校正紙を送ってホッとしていると、徳間書店海外事業部の部長が、米国任天堂の返事を持って「たいへんなことになった」と編集部に飛び込んで来ました。

米国任天堂の社長から「これは発注した物と全く違う、全部やり直して欲しい」とのことでした。

米国からガイドブックの担当者が日本へ出張してきて、徳間書店が取った近くのホテルのスイートルームに陣取り、こちらは、Koiくんを中心に担当チームを作り直して、全ページの作り直しの作業が始まりました。

Koiくんは、作り直したレイアウトラフを持ってホテルのスイートルームに行き、米国任天堂の担当者からダメ出しをされ、編集部に持ち帰り、レイアウトをやり直す。

その繰り返しで、Koiくんは編集部とホテルの間を1日に何回も往復しました。

打ち合わせの相手はアメリカ人で英語しか分からず、Koiくんは英語が分からず、通訳が入ったの打ち合わせはなかなか意志が伝わらず、作業を難しくしていきました。

ただし、この時通訳をしてくれた方には、その後海外の仕事をする上で長い間お世話になることになりました。

何回も直している内に、米国任天堂社長の求め

ている紙面は「日本のゲーム雑誌と同じ紙面を英語で作って欲しい」と言つことだと分かりました。

「なんだ、いつもの通りに作ればいいんだ」とやつと理解し、それ以後は比較的スムーズに作業は進む様になっていきました。

しかし今度は、ゲームひとつひとつに付いて、どう表現するのがゲームの内容を一番ユーザーに伝えることができるか、何度も作り替えて了解を取る作業になり、Kooiさんのホテル通いは続きました。

アメリカで印刷する

日本で印刷製本した本をアメリカへ送るのでは、輸送コストも時間もかかって採算が取れない上、

年末に販売する米国版ファミコンの生産に時間的にも間に合いません。

アメリカの印刷会社で印刷製本して米国任天堂に納品することになりました。

日本で製版した印刷用のフィルムをアメリカの印刷機械で印刷するためには、細かな技術的な仕様が違うことが分かり、印刷インクも日本とアメリカのでは色合いが違い、同じ赤でも色が違うことも分かりました。

日本のインクで印刷した校正紙で色合いを確認して校了しても、そのままアメリカのインクで印刷すると、色合いが全然違う仕上がりになってしまふのです。

その違いを埋めるために、Kooiくんは、徳間書店海外事業部の部長と製版会社の技術者と3人

で、アメリカの砂漠の中にある徳間書店が見つ
けて契約した印刷会社まで、出張で行かなければ
なりませんでした。

また、日本ではそういう習慣はあまりありませ
んが、アメリカでは印刷する時に必ず「印刷立ち
会い」をしなければならず、Kooくんは再度ア
メリカに出張することになりました。

日本の仕事では考えられない経験をいくつも乗
り越えて、Kooくんは無事、任天堂オフィシャル
プレイヤーズガイドを、米国任天堂に届けてく
れました。

この年の年末商戦の出荷に間に合わせることで
でき、無事米国のユーザーの手元に届けることが
できました。

「任天堂オフィシャルプレイヤーズガイド」の反

響はすごく、予定になかったゲームショップ店頭
での、ガイドブック単体での販売も行われたほど
でした。

この成功が、今まで想像をしていなかった、奇
跡を起こすことになりました。

